

迷惑之由也、欲深過量、眼前之事也。

〔長曾我部元親百箇條〕掟

一升之事、國中京升一偏可相定事、但計様者年貢借物者あげ賣買者さげ可計事、略○中

慶長貳年三月廿四日

〔御定書百箇條〕似セ枡略○中 挙候もの御仕置之事
〔寛保二年極似セ枡掟候もの〕引廻之上 獄門

但入目違無之に於ては中追放

〔享保集成絲綸錄三十四〕寛文九酉年二月

一江戸升、今度京升之ごとく御改、升一同ニ被仰付候間、望之者は、樽屋藤左衛門所江參可申候、新升之直段、壹挺ニ付代銀四分宛ニ御定被仰付候、左様可相心得旨、町中江相觸可申事、

二月

寛文九酉年八月

當春相觸候通、江戸升と京升寸法相違有之故、京升之ごとく御改、升一同に被仰付候、當閏十月朔日々、一切古升用申間敷旨被仰付候間、其方前ニ樽屋藤左衛門所江參新升調之遣可申候旨、町中相觸可申事、

八月

寛文十戌年九月

覺

去年より京升之寸法にて、新升被仰付之所于今古升を用候所有之由其聞候、高壹萬石ニ付而新升五十宛之積高に應じ、樽屋藤左衛門所より求之、江戸并ニ領内ニをひて可被用之者也、